

平成 29 年度
(平成 28 年度実績)

食肉衛生検査業務概要



鹿児島市食肉衛生検査所

はじめに

鹿児島市食肉衛生検査所の業務につきましては、日頃より格別のご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

食肉を取り巻く国際情勢が大きな転換期を迎えるなか、国の方では、製造・加工等を行う全ての食品等事業者を対象として HACCP による衛生管理の制度化の検討を進めており、食肉衛生検査所においても昨年度より指導担当チームを発足し、と畜場の管理者と協議を重ねて制度化の推進を図っているところです。

BSE (牛海綿状脳症) 検査につきましては、今年 4 月から健康牛に係る検査は廃止になりましたが、引き続き BSE を疑う牛の検査や特定危険部位の除去、監視等のリスク管理措置は適正に行ってまいります。

平成 25 年以降、国内で発生が続いていた PED (豚流行性下痢) の発生は鎮静化する一方、近隣アジア諸国では口蹄疫の発生が続き、今年はロシア南部においてアフリカ豚コレラの発生が初めて確認されました。

これらの海外悪性伝染病につきましては、関係機関と情報共有を密にして検査体制を整え、感染拡大の防止に努めてまいります。

今後とも、関係機関と連携を図りながら、食品衛生監視指導計画に基づく残留有害物質のモニタリング検査や微生物汚染実態調査、施設の衛生監視指導を行うことにより食肉の安全性確保に努めるとともに、より一層業務の推進に取り組んでまいります。

ここに、平成 29 年度食肉衛生検査業務概要 (平成 28 年度実績) を取りまとめましたので、ご高覧いただければ幸いに存じます。

平成 29 年 9 月

鹿児島市食肉衛生検査所長
市来 英俊

目 次

第1章 検査所の概要

1	沿革	1
2	所在地	2
3	組織機構	3
4	職員構成	3
5	事務分掌	3
6	検査手数料等	4
	(1) と畜検査手数料	
	(2) と畜場使用料・とさつ解体料	
7	検査所管理棟平面図	5、6
8	主要検査機器	7
9	鹿児島食肉センターの概要	8

第2章 と畜検査業務の概要

1	と畜検査頭数	
	(1) 年度別と畜検査頭数	9
	(2) 年度別と畜検査頭数の推移	9
	(3) 月別と畜検査頭数	10
	(4) 月別と畜検査頭数の推移	10
	(5) 出荷地別と畜検査頭数	11
	(6) 豚の湯剥ぎ、皮剥ぎの推移	11
2	と畜検査に基づく廃棄処分措置	
	(1) とさつ禁止又は廃棄の疾病別頭数	12
	(2) 年度別全部廃棄頭数の推移	13
	(3) 牛の全部廃棄状況	14
	(4) 豚の全部廃棄状況	15
3	精密検査実施状況	
	(1) 枝肉の拭き取り検査	16
	(2) 抗菌性物質の残留検査	16
	(3) BSE(牛海綿状脳症)の検査	17
4	その他	
	(1) 衛生講習会	17
	(2) 普及啓発	17

第3章 調査研究、研修等

1	調査研究部会	18
2	調査研究および発表 職員の技術研修等	18、19

第1章 検査所の概要

1. 沿革

明治 42 年 7 月	『鹿児島市営と畜場』を鹿児島郡伊敷村字松木川原に設置
大正 9 年 10 月	伊敷村の一部合併により経営権を伊敷村へ移譲
大正 13 年 7 月	と畜場を伊敷村下伊敷 557 - 2 に移転し、名称を『伊敷村営屠場』へ
昭和 25 年 10 月	伊敷村との全面合併により、経営権を鹿児島市へ移行 と畜検査業務は保健所公衆保健課が所管
昭和 32 年 10 月	と畜場を郡元町 2411（現：新栄町 22-34）に移転
昭和 34 年 10 月	機構改革により所管を中央保健所公衆保健課から中央保健所公衆衛生課へ 変更
昭和 46 年 10 月	中央保健所公衆衛生課に食肉検査係を新設
昭和 50 年 2 月	試験検査室の新設
昭和 53 年 2 月	病畜棟 (134 m ²) の新設、検査員事務室 (64 m ²) の増設
平成 4 年 4 月	食肉検査係から食肉検査課に昇格
平成 8 年 4 月	鹿児島市が中核市へ移行
平成 8 年 10 月	と畜場を新栄町 22-34 から下福元町 7852 に移転
平成 9 年 4 月	食肉検査課から食肉衛生検査所へ改称
平成 11 年 1 月	と畜場が対香港輸出豚肉取扱い施設として認定される
平成 12 年 4 月	機構改革により環境局中央保健所食肉衛生検査所から 健康福祉局保健所食肉衛生検査所へ変更
平成 15 年 4 月	と畜場を民営化し、名称を『鹿児島食肉センター』へ
平成 19 年 2 月	試験検査室等の増築
平成 22 年 4 月	と畜場が対タイ輸出牛肉取扱い施設として認定される と畜場が対マカオ輸出牛肉取扱い施設として認定される
平成 26 年 9 月	と畜場が対ベトナム輸出牛肉取扱い施設として認定される

2. 所在地

名 称 鹿児島市食肉衛生検査所（鹿児島食肉センター内）

郵便番号 891-0144

住 所 鹿児島市下福元町7852

電 話 (099) 262-2116

F A X (099) 262-4940

アクセス方法

①電車を利用

JR鹿児島中央駅より、JR指宿枕崎線「指宿行き」に乗車、JR五位野駅で下車
JR五位野駅から鹿児島食肉センターまでタクシーで約5分、徒歩で約20分

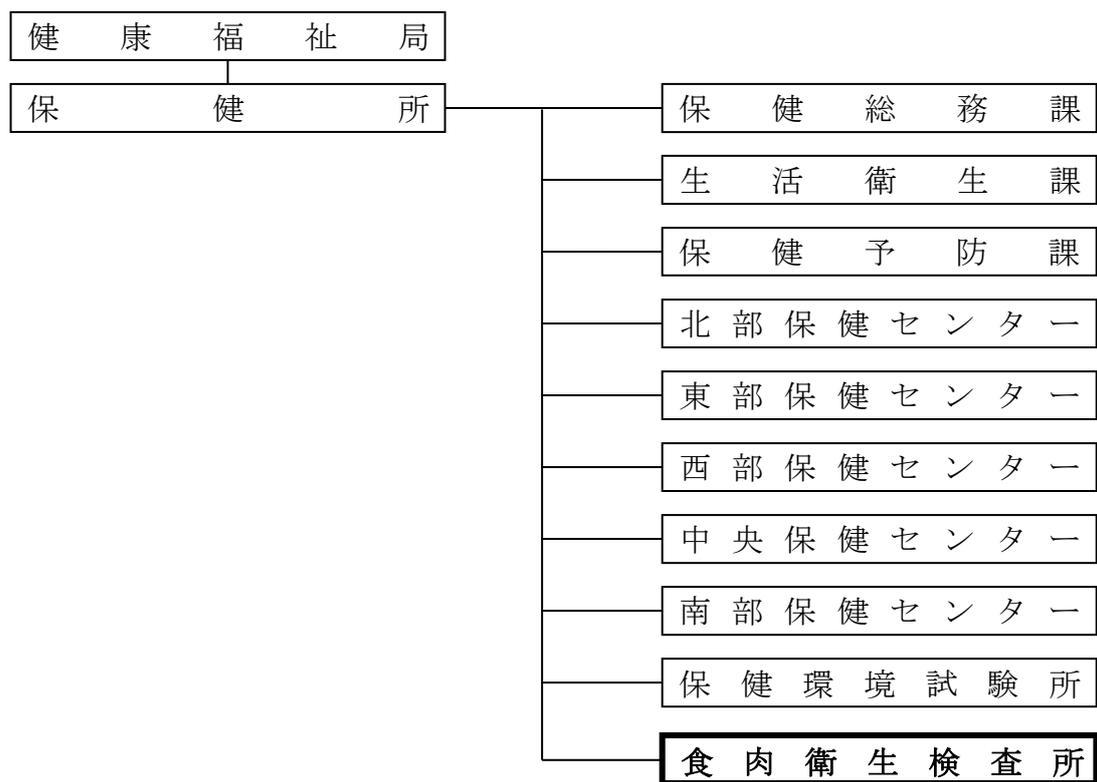
②航空を利用

鹿児島空港よりバス利用の場合

高速バス（直行便）でJR鹿児島中央駅まで約40分 その後電車を利用



3. 組織機構



4. 職員構成

29年9月1日現在

職名	所長	主幹	主査	主任	獣医師	主任	臨時職員		合計
職種	獣医師					事務	補助員	事務	
人数	1名	1名	4名	5名	2名	1名	7名	1名	22名

5. 事務分掌

鹿児島市組織及び事務分掌等に関する規則（抜粋）

- (1) と畜場法に基づくと畜検査及び衛生指導に関すること。
- (2) 食品衛生法に基づく監視指導、収去・検査及び措置に関すること。
(他の所掌に係るものを除く。)
- (3) 公印の保管に関すること。
- (4) その他所に属する軽易な庶務に関すること。

食鳥検査については、市保健所生活衛生課獣疫係が所掌し、指定検査機関の公益財団法人鹿児島市獣医公衆衛生協会に検査業務を委任している。

6. 検査手数料等

(1) と畜検査手数料

(1頭あたりの手数料)

区 分	時間内	時間外
牛・馬	760 円	1,520 円
子牛・子馬	380 円	760 円
豚	350 円	700 円
乳とく・めん羊・山羊	170 円	340 円

平成 19 年 4 月 1 日から適用

(2) と畜場使用料・とさつ解体料

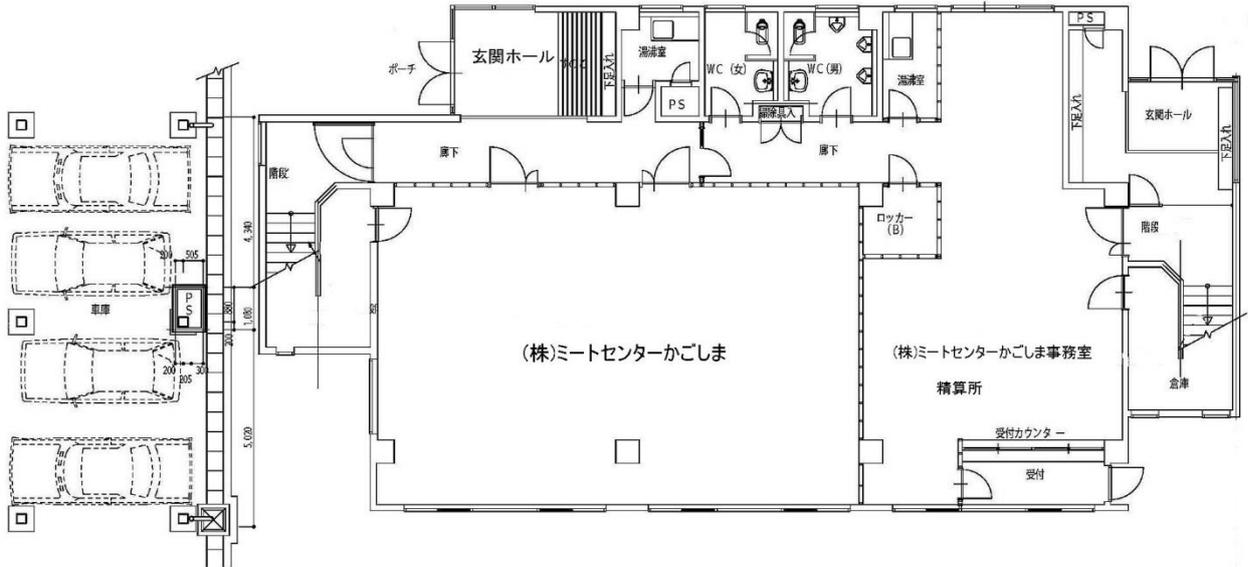
(1頭あたりの料金)

区 分			時間内	時間外	
と畜場使用料	牛・馬		2,203 円	3,304 円	
	子牛・子馬		1,101 円	1,652 円	
	豚	皮剥ぎ	1,101 円	1,652 円	
		湯剥ぎ	1,242 円		
	乳とく・めん羊・山羊		237 円	356 円	
とさつ解体料	牛・馬		5,190 円	8,441 円	
	子牛・子馬		3,198 円	6,868 円	
	豚	普通	皮剥ぎ	692 円	3,439 円
			湯剥ぎ		
		大豚	皮剥ぎ	(機 械) 1,426 円	
			(手剥ぎ) 1,845 円	4,593 円	
			湯剥ぎ	1,426 円	
	乳とく・めん羊・山羊		1,573 円	5,243 円	

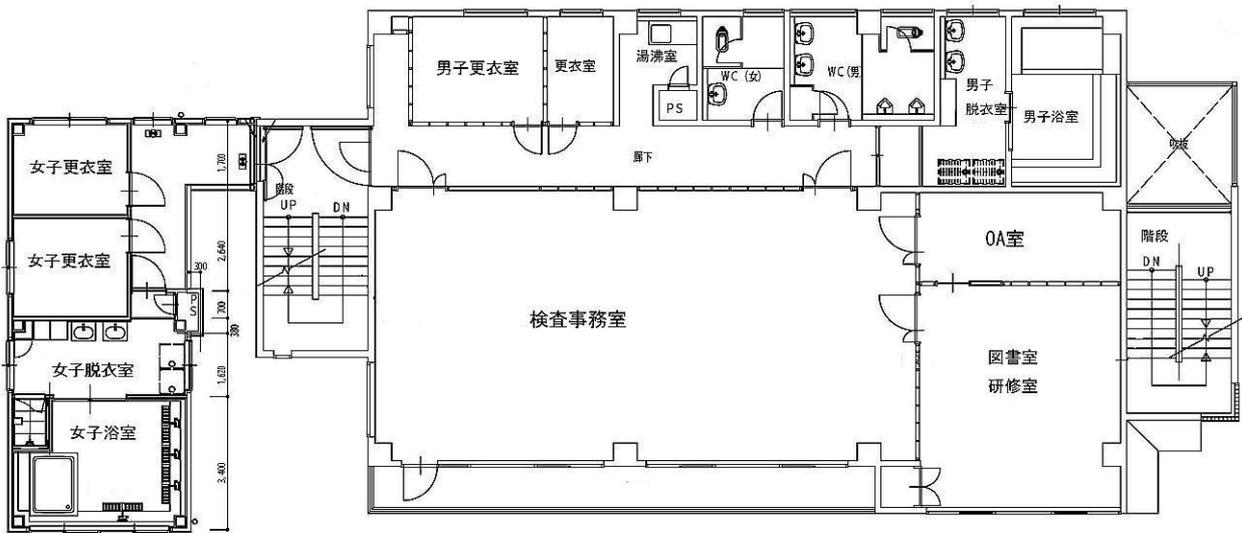
平成 26 年 4 月 1 日から適用

7. 検査所管理棟平面図

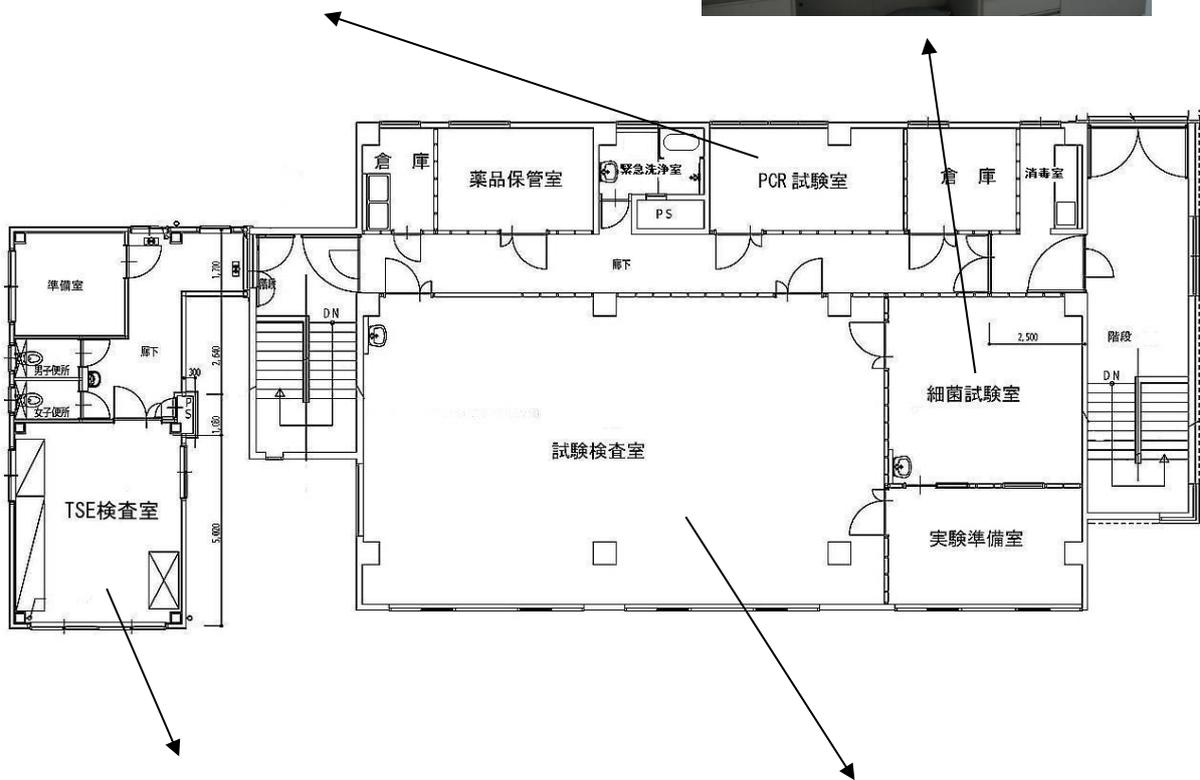
食肉衛生検査所管理棟（1階）



食肉衛生検査所管理棟（2階）



食肉衛生検査所管理棟（3階）



8. 主要検査機器

微生物検査関係	乾熱滅菌器	インキュベーター	試験管ミキサー
	マグネットスターラー	オートクレーブ	実体顕微鏡
	位相差顕微鏡	嫌気培養ジャー	ディープフリーザー
	高速冷却遠心機	ディスクッション顕微鏡	保冷库
	冷蔵ショーケース	バイオクリーンベンチ	試験管攪拌器
	孵卵器	万能シェーカー	低温恒温器
	湯煎器	DNA 増幅装置	紫外線照射装置
	アルミブロック恒温槽	嫌気性培養装置	微量電子天秤
	ミキサー	電気泳動装置	電気泳動ゲル撮影装置
	安全キャビネット		

理化学検査関係	超音波洗浄機	血液生化学自動分析装置	水分計
	電子分析天秤	高速液体クロマトグラフ	ロータリーエバポレーター
	pH メーター	アスピレーター	振とう器
	卓上型生化学検査システム	超高速ホモジナイザー	ピペット洗浄器

病理検査関係	自動固定包埋装置	病理組織検査用顕微鏡システム	パラフィン包埋ブロック作成装置
	クリオスタットマイクロトーム	組織固定用振とう器	パラフィン伸展器
	マイクロトーム		

BSE検査関係	マイクロプレートリーダー	試験管ミキサー	組織・細胞破碎装置
	マイクロプレートウォッシャー	インキュベーター	高速冷却遠心機
	安全キャビネット	アルミブロック恒温槽	電子天秤
	保冷库		

9. 鹿児島食肉センターの概要

(1) 敷地面積 29,846.61 m² (9,044 坪)

(2) 建築面積 11,076.96 m²

(3) 延床面積 14,461.16 m²

本 館 棟 12,353.78 m²

		大動物	小動物	共 用	(m ²) 小計
とさつ解体 施 設	係留バース	1,740			7,233
	係留施設	369	958		
	と室・解体室	323	926		
	内臓処理室	144	264		
	休憩室・工作室・廊下等	2,509			
冷蔵室		205	257		462
部分肉処理加工施設		929	1,985	824	3,738
共用施設 (冷凍機械室、医務室等)		920			920
計		1,670	4,690	5,993	12,353

管 理 棟 967.60 m²

病 畜 棟 262.50 m²

廃棄物処理棟 420.00 m²

受 水 槽 棟 75.56 m²

汚 水 処 理 棟 381.72 m²

(4) 処理能力

	大 動 物	小 動 物
けい留所収容	57 頭	1,000 頭
とさつ・解体	80 頭/日	1,300 頭/日
懸肉・予冷		1,300 頭/日
冷却・冷蔵	200 頭	1,900 頭 (部分肉処理加工施設含む)
部分肉処理加工	45 頭/日	400 頭/日

第2章 と畜検査業務の概要

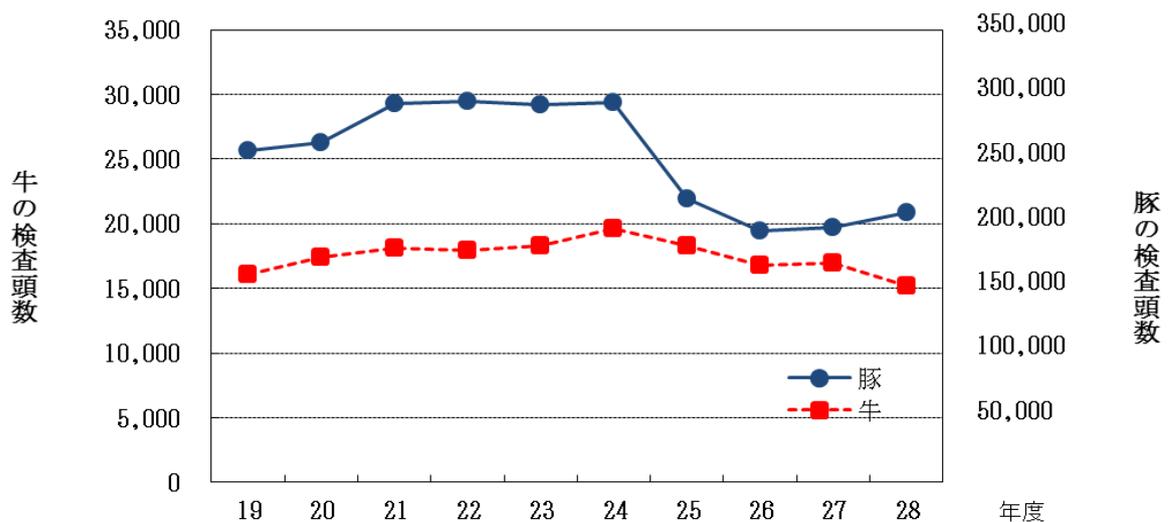
1. と畜検査頭数

(1) 年度別と畜検査頭数

	牛		子牛		馬		豚		合計
	時間内	外	時間内	外	時間内	外	時間内	外	
19年度	16,009	85	18	2	15	1	256,830	42	273,002
20年度	17,278	109	25	2	18	0	262,888	31	280,351
21年度	17,993	100	39	2	12	1	293,171	26	311,344
22年度	17,780	135	63	2	5	0	294,839	32	312,856
23年度	18,126	112	17	5	3	0	292,039	26	310,328
24年度	19,543	105	20	3	2	0	294,017	32	313,722
25年度	18,191	90	6	0	0	0	219,180	36	237,503
26年度	16,719	101	14	3	0	0	194,150	21	211,008
27年度	16,846	109	12	2	0	0	196,935	35	213,939
28年度	15,131	102	3	0	0	0	208,772	28	224,036
	15,233		3		0		208,800		
			15,236		0				

注) 子牛は生後1年未満の牛をいう。

(2) 年度別と畜検査頭数の推移

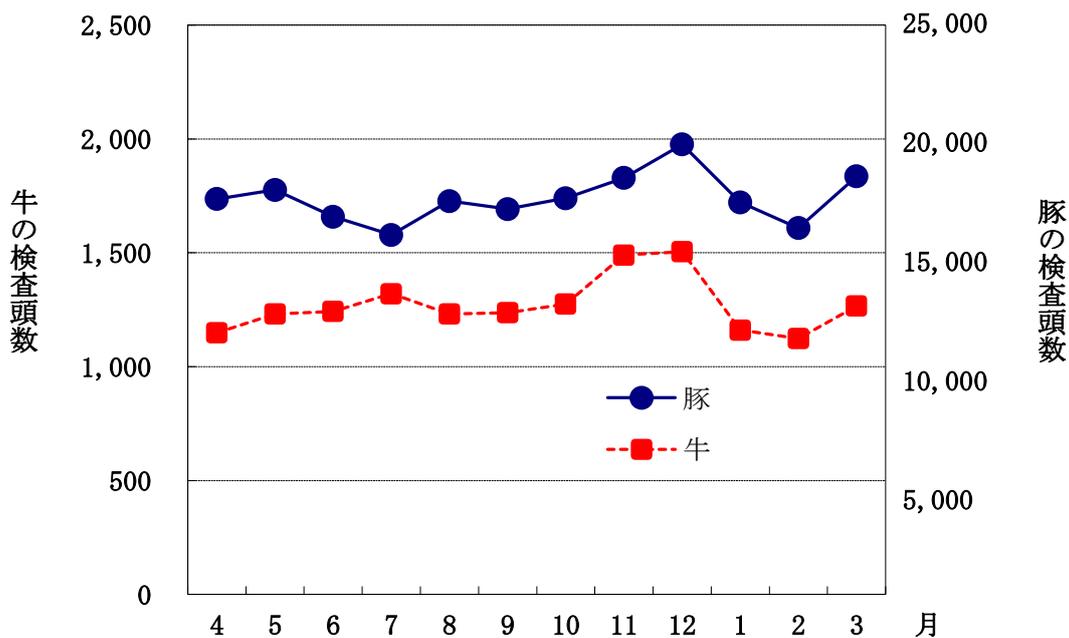


注) 25年度は大手出荷者の撤退により減となった。

(3) 月別と畜検査頭数

	牛		子牛		豚		合計
	時間内	外	時間内	外	時間内	外	
4月	1,143	6	0	0	17,361	2	18,512
5月	1,225	7	0	0	17,762	4	18,998
6月	1,235	7	1	0	16,580	3	17,826
7月	1,313	8	0	0	15,784	0	17,105
8月	1,222	10	0	0	17,268	2	18,502
9月	1,225	12	0	0	16,921	2	18,160
10月	1,261	14	0	0	17,398	2	18,675
11月	1,477	13	0	0	18,286	4	19,780
12月	1,498	7	0	0	19,753	4	21,262
1月	1,154	7	0	0	17,219	0	18,380
2月	1,117	6	1	0	16,084	4	17,212
3月	1,261	5	1	0	18,356	1	19,624
合計	15,131	102	3	0	208,772	28	224,036

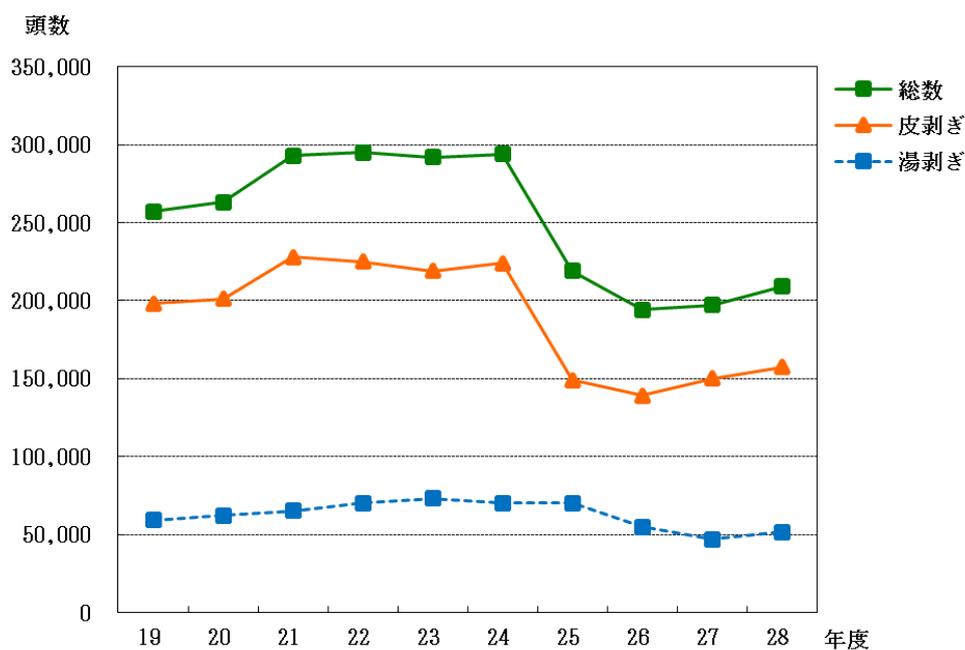
(4) 月別と畜検査頭数の推移



(5) 出荷地別と畜検査頭数

	牛の出荷地							豚の出荷地	
	和牛	乳牛		その他	子牛	総数	%	豚	%
		雌	雄						
鹿児島地区	218	15	2	0	0	235	1.5	810	0.4
指宿地区	1,160	2	218	458	0	1,838	12.1	8,664	4.1
川辺地区	1,762	96	1	23	2	1,884	12.4	66,563	31.9
日置地区	766	13	1	0	0	780	5.1	2	0.1以下
薩摩地区	633	2	0	333	1	969	6.4	22,793	10.9
出水地区	801	5	0	0	0	806	5.3	3,322	1.6
伊佐地区	310	2	0	55	0	367	2.4	13,483	6.5
始良地区	556	154	0	13	0	723	4.7	6,636	3.2
曾於地区	637	41	0	8	0	686	4.5	31,790	15.2
肝属地区	3,345	115	0	1	0	3,461	22.7	32,017	15.3
熊毛地区	17	2	0	0	0	19	0.1	266	0.1
大島地区	37	0	0	0	0	37	0.2	562	0.3
宮崎県	1,577	767	48	0	0	2,392	15.7	17,613	8.4
熊本県	120	240	4	76	0	440	2.9	4,270	2.0
その他	411	182	0	6	0	599	3.9	9	0.1以下
計	12,350	1,636	274	973	3	15,236	100	208,800	100

(6) 湯剥ぎ、皮剥ぎ頭数の推移 (豚)



(2) 年度別全部廃棄頭数の推移

牛

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
膿毒症	8	7	3	7	8	5	7	4
敗血症	5	13	7	10	15	11	8	10
尿毒症	6	14	17	8	3	2	2	9
高度の黄疸	5	4	8	4	6	4	4	
高度の水腫	18	22	21	26	11	20	11	12
腫瘍	34	23	9	13	15	3		1
炎症又は炎症産物								
変性又は萎縮		1				1	2	
牛白血病			31	41	50	27	28	17
計	76	84	96	109	108	73	62	53

注) H23年度より「腫瘍」のうち牛白血病と診断したものは「牛白血病」に分類

豚

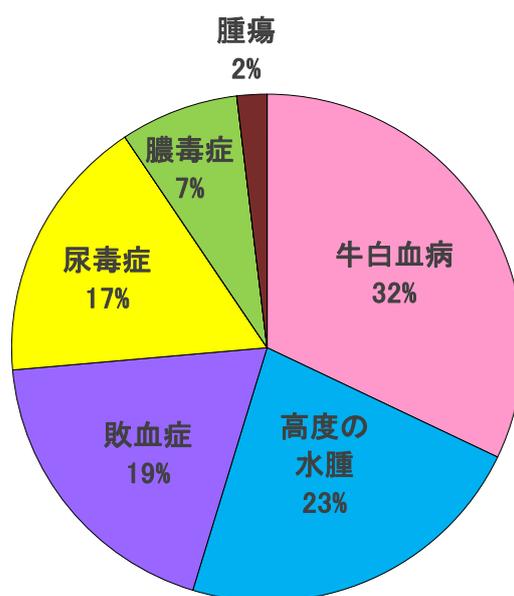
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
膿毒症	134	212	224	261	196	191	231	283
敗血症	30	88	80	167	87	96	75	80
尿毒症	14	14	17	20	11	6	11	8
豚丹毒	33	39	78	80	131	30	38	31
高度の黄疸	3	3	4	5	2	6	5	6
高度の水腫	111	150	200	256	104	98	32	52
腫瘍	47	29	21	24	8	3	4	6
炎症又は炎症産物								0
変性又は萎縮	72	56	56	34	24	23	21	30
その他								0
計	444	591	680	847	563	453	417	496

(3) 牛の全部廃棄状況

月別全部廃棄頭数

	牛									
	膿毒症	敗血症	尿毒症	高度の黄疸	高度の水腫	腫瘍	汚産物による炎症	炎症又は萎縮	牛白血病	合計
4月		1	1						1	3
5月	1	2							1	4
6月	1		3		1				1	6
7月		1				1			3	5
8月	2				1					3
9月		1	1		2					4
10月		1	1						1	3
11月		2			3					5
12月			2						2	4
1月					3				5	8
2月		1			1				2	4
3月		1	1		1				1	4
合計	4	10	9	0	12	1	0	0	17	53

全部廃棄の疾病別割合

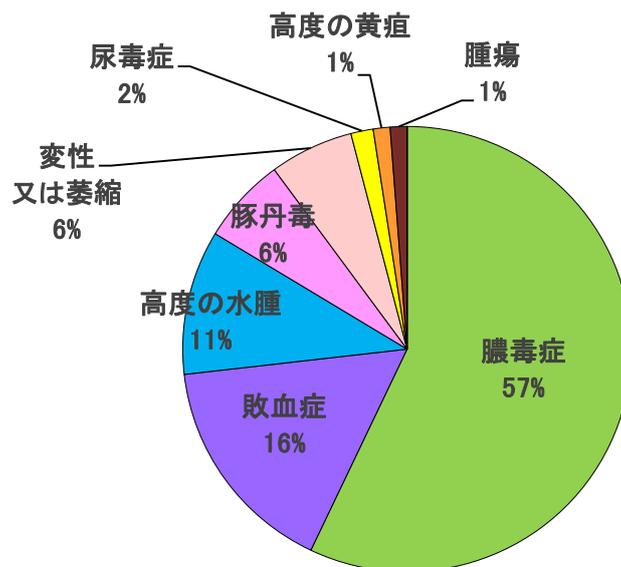


(4) 豚の全部廃棄状況

月別全部廃棄頭数

	豚										合計	
	豚丹毒症	膿毒症	敗血症	尿毒症	高度の黄疸	高度の水腫	腫瘍	汚産物に染る症	炎症又は炎症による症	変性又は萎縮		その他
4月	6	12	9			7	1			6		41
5月	4	19	5	1	1	5				2		37
6月	7	14	12	1		8	1			2		45
7月	1	20	5		1		1			2		30
8月	2	27	11	1		5	1			3		50
9月		40	5	2	1	4				4		56
10月	1	27	4	2		5				1		40
11月	1	23	7	1		2				4		38
12月	1	25	8		1	5	1			3		44
1月	5	17			1	4				2		29
2月	1	25	6		1	4	1					38
3月	2	34	8			3				1		48
合計	31	283	80	8	6	52	6			30		496

全部廃棄の疾病別割合



3. 精密検査実施状況

(1) 枝肉の拭き取り検査

(検体数)

	一般細菌数	大腸菌群数	腸管出血性大腸菌	サルモネラ属菌	黄色ブドウ球菌	カンピロバクター属菌
牛	95	95	55	55	55	55
豚	95	95		55	55	55
計	190	190	55	110	110	110

(2) 抗菌性物質の残留検査

①抗菌性物質の残留疑いの検査

		牛	子牛	豚	計
検査頭数		267	0	498	765
検査結果 (陽性)	頭数	1	0	12	13
	枝肉	0	0	6	6
	肝臓	1	0	3	4
	腎臓	0	0	12	12
処分状況	食品衛生法適用	0	0	0	0
備考	自主廃棄	0	0	6	6

②疾病疑いによる保留での検査

		牛	子牛	豚	計
検査頭数		67	2	726	795
検査結果 (陽性)	頭数	1	0	2	3
	枝肉	0	0	1	1
	肝臓	1	0	0	1
	腎臓	0	0	2	2
処分状況 (検査結果が 陽性の症例)	食品衛生法適用	0	0	0	0
	他の疾病で 全部廃棄	1	0	1	2
備考	自主廃棄	0	0	1	1

③モニタリング検査結果 (厚生労働省通知に基づく検査)

	検査検体数	検査項目数※	検査結果
牛の筋肉	10	11	検出せず
牛の腎臓	10	4	
豚の筋肉	20	11	
豚の腎臓	20	4	

※抗生物質簡易検査4系統 (テトラサイクリン系、アミノグリコシド系、マクロライド系、ペニシリン系)

※合成抗菌剤一斉分析7薬剤 (スルファメラジン、スルファモノメキシ、スルファジメキシ、チアンフェニコール、オルメプロリム、トリメプロリム、ピリメタミン)

(3) BSE（牛海綿状脳症）の検査

(検体数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	検体数
23年度	1,363	1,470	1,348	1,473	1,616	1,516	1,519	1,654	1,792	1,455	1,438	1,616	18,260
24年度	1,626	1,742	1,635	1,606	1,719	1,524	1,727	1,678	1,774	1,597	1,464	1,578	19,670
25年度	1,677	1,652	1,470	365	370	371	393	283	342	353	351	337	7,964
26年度	341	325	335	349	314	330	402	274	351	380	365	458	4,224
27年度	375	307	333	335	300	365	376	308	300	325	354	322	4,000
28年度	239	275	257	240	309	262	291	245	244	273	234	302	3,171
検査結果	陰 性												

4. その他

(1) 衛生講習会

と畜解体従事者および市民を対象とした衛生講習会を実施した。

講習会内容	対象者	受講者数	実施時期・回数
HACCPの一般衛生管理プログラムについて	解体従事者	93名	H28年6月(1回)
枝肉の拭き取り検査結果と衛生管理について			H28年9月(1回)
HACCPってなあに？			H28年10月(1回)
食の安心安全って何ですか？			H29年3月(1回)
安心して食べられる食肉をめざして	市民	69名	H28年8月(2回) H28年10月(1回)

(2) 普及啓発

平成28年8月、保健所食品衛生月間行事において大型商業施設でパネル展示を行い、と畜検査について紹介した。

第3章 調査研究、研修等

1. 調査研究部会

鹿児島県食肉衛生検査所協議会の三部会に参加し、それぞれのテーマについて調査・研究・情報交換等を行った。

年 月	テーマ	場 所
H28年5、11月 H29年2月	<微生物部会> ・食鳥肉における微生物汚染低減策の有効性実証事業への参加 ・カンピロバクター属菌の定量試験及びqPCRによる同定試験の方法の習得	第1回 鹿児島県末吉食肉衛生検査所 第2回 鹿児島県獣医師会館 第3回 鹿児島県獣医師会館 鹿児島県青少年会館
	<病理部会> ・迅速切片によるカラーアトラスの追補	
	<理化学部会> ・ミューラーヒントンブロスを用いたML培地の検討	

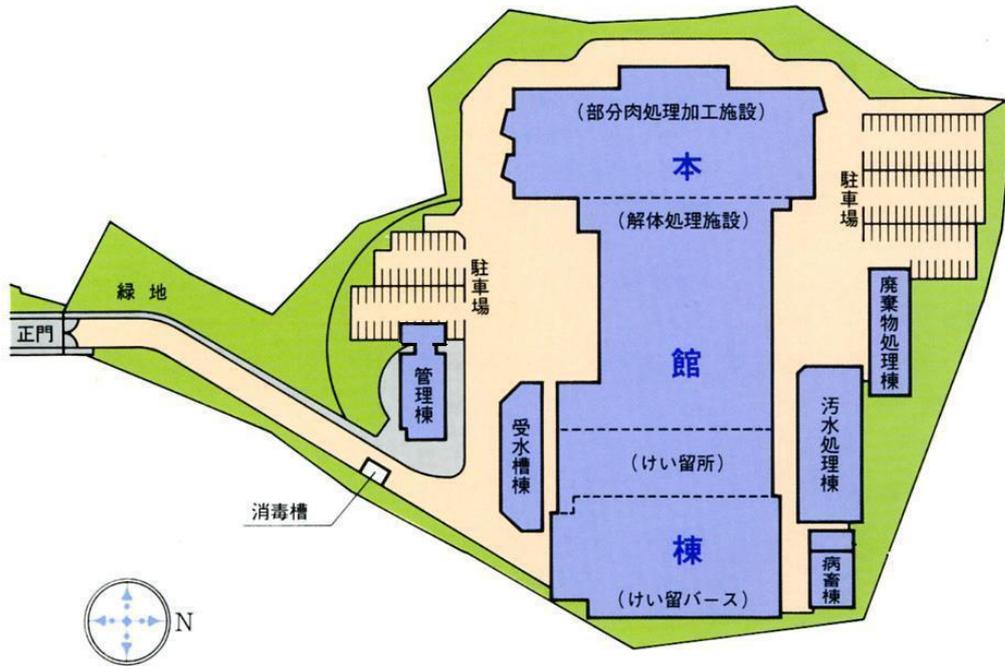
2. 職員の技術研修等

検査員の資質向上のため、研修会および学会等へ参加した。

年 月	業務研修の内容	場 所
H28年6～7月	国立保健医療科学院研修食肉衛生検査研修	埼玉県和光市
H28年7月	鹿児島県獣医公衆衛生技術研修会	鹿児島市
H28年10月	九州地区食肉衛生検査所所長会・研究部会・研修会	大分市
H28年10月	全国食肉衛生検査所協議会理化学部会総会・研修会	茨城県つくば市

H28 年 11 月	全国食肉衛生検査所協議会微生物部会総会・研修会	横浜市
H28 年 11 月	全国食肉衛生検査所協議会病理部会総会・研修会	神奈川県相模原市
H28 年 11 月	鹿児島県新規採用と畜・食鳥検査員技術研修会	鹿児島県曾於市
H28 年 1 月	厚生労働省食肉衛生技術研修会	東京都
H28 年 2 月	日本獣医師会獣医学術学会年次大会	金沢市
H29 年 3 月	HPLC 入門講習会	京都市

施設配置図



平成29年度 業務概要

平成29年9月 発行

鹿児島市食肉衛生検査所

〒891-0144

鹿児島市下福元町7852

TEL 099(262)2116

FAX 099(262)4940